令和６年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

本校の目指す学校像	日本大学の建学の精神を礎とし，次の方針を掲げ，21世紀にふさわしい充実した学園生活を目指す。 （１）一人ひとりの志を大切にし，その実現を支援します。 （２）心身ともに健康でたくましく気品ある人を育成します。 （３）基礎学力の充実に徹します。 （４）積極的な進路指導に力を入れます。 （５）国際化･共生化に対応できる能力開発に努めます。

本校の特徴および課題	本校は，日本一のスケールと多様性や可能性を持つ総合大学，日本大学の付属高校であるという安定した基礎の上に，生徒一人ひとりの志を尊重し，その成就を支援する３コース５クラス制を敷いている。各コースの特色を活かして，１．学力向上に関する取り組み，２．進路指導に関わる取り組み，３．学校生活に関わる取り組み，４．生徒会･部活動に関わる取り組みなどを連携させ，生徒一人ひとりの目標にしっかり答えられるよう，指導力の向上に継続して努力したい。

令和６年度取組結果	全学年において新学習指導要領での指導が展開されることとなり，大学入学共通テストの傾向に合わせた指導や総合型・学校推薦型選抜の積極的な活用など，生徒に合わせた指導を実施した。今後も文部科学省・大学入試センターから提示される方針に注視し，時代に即した教育を実施していきたい。日本大学へは付属高校推薦入学制度への対応が機能している。日々の教育内容については，表現力を高めるためのアクティブラーニングの実践や，生徒全員がiPadを所有することとなったＩＣＴ教育など，様々な面で教育活動のレベルアップが図られている。これらの教育活動の成果として，進路実績も日本大学への進学者数は目標を達成し，国公立大学への合格実績も成果を上げた。施設面では，柔道場および剣道場にエアコンを新設し，経年劣化していた一部教室のエアコンも取り替えた。また，全教室のプロジェクターを取り替えるなど，時代に即した教育環境の充実が図られた。

目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況	Ａ：取組目標が達成された　Ｂ：目標はおおむね達成された Ｃ：課題を多く残している　Ｄ：成果が出ていない

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
教育活動（教務）	①目標の設定について	新クラス設置における円滑な業務運営	B
	②活動の実際について	R６年度入学生を対象に，グローバルスタディコースで理系クラスが，R５年度入学生を対象に特別進学コースで私立文系クラスが設置され，新たなクラスの設置にともない，新たなカリキュラムが設定された。この新たなカリキュラムについて，使用教材の選定を中心に円滑に準備を進めることができた。次年度は新しいクラスがスタートする初年度のため，年度末の時間割の作成作業や授業担当者の配置等に細心の注意を払いながら業務を進めていく。	B
	③活動の点検について	年度当初の時間割の設定において特に新たなカリキュラムが円滑に実施できるように最善の注意を払った。教科主任会議や通信制課程との連携を密にとり，懸念事項について適宜修正を図ってきた。カリキュラムの実施については，全日制課程だけでなく通信制課程においても年間を通して確認しながら進めた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
教科指導（教務）	①目標の設定について	教務部の組織の充実	B
	②活動の実際について	教務部の業務内容は多岐にわたるが，内容によって負担量は異なる。臨時時間割の作成や定期テスト業務等，教務部の業務の中でも負担が大きいものについては，負担の分散を目的として多くの教務部員に担ってもらえるよう組織の充実を図ることができた。通信制課程については４年目となり，行事の参加や施設の利用等で全日制課程との連携もかなりの部分で進んだ点は評価できるのではないかと感じている。	B
	③活動の点検について	一昨年より臨時時間割の作成においては複数の教員による持ち回りでの担当制を導入するなど，負担が分散するように努めている。３月の組織図作成段階において充実を図りながら，年度途中でも柔軟に対応できるよう適宜見直しを検討した。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
学校生活への配慮 （生徒指導）	①目標の設定について	①あいさつの励行 ②端正な服装頭髪の徹底 ③いじめの根絶 ④社会のルールやマナーの遵守	A
	②活動の実際について	①あいさつの励行：こちらから挨拶をすればしっかりと返事を返してくれるが，生徒自ら進んで大きく元気な声で挨拶する生徒がやや少ないと感じている。学校生活の様々な場面を指導の機会と捉え，指導を継続し早くコロナ以前の状況に戻したい。 ②端正な服装頭髪の徹底：本校の生徒心得を意識して，身だしなみしっかり整えている生徒が多くおりおおむね良好である。一方で，コースや学年間で温度差なく同じスタンスでの指導を行うことやに課題が残る。 ③いじめの根絶：いじめとなりそうな事案を早期発見し対応できた結果,大きな問題にならずに済んでいるが，SNS使用時のルールや情報の発信方法など繰り返し指導を行い，さらなる情報モラルの醸成に努める必要がある。 ④社会のルールやマナーの遵守：苦情については学校周辺の道路や近隣店舗駐車場での送迎，登下校時に横に広がって歩くことや歩きながらのスマートフォン使用がある。しかし，多くの生徒はきちんとしており，トラブルやクレーム等も年毎に漸減している。	B
	③活動の点検について	生徒指導部会議で問題点の共有を諮るとともに，登下校時における立哨指導や通学安全週間での指導や見守り活動を継続してマナーの向上に努めていく。また，朝の打ち合わせや生徒指導部週報を活用して，先生方と情報を共有し，先生方の言葉で生徒への指導や講話を行う。保護者宛メール文書にも現状の問題点など記載し理解，協力を継続的に促す。特に，自家用車による送迎は保護者へのメール配信を利用して，更なる理解協力を促していく。いじめの根絶については，いじめ防止対策室・教育相談室・保健室との連携を密にして根絶に取り組んでいく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
生徒会･部活動 （生徒指導）	①目標の設定について	生徒会，常任委員会，部活動において，生徒が主体的な活動ができるようにする。	B
	②活動の実際について	【委員会活動】 令和6年度は生徒指導部が担当した。 【クラブ活動】 運動部・文化部ともに活発が活動がなされるよう予算配分を深慮し，活動結果がスムーズに広報できるよう連携を強めた。 【応援活動】 諸感染症に配慮しつつ体育館に全校生徒を集め壮行会を計画・実施することができた。応援部，吹奏楽部，チアリーディング部をまとめ各大会において応援を盛り上げることができた。 【取り組み結果】 生徒会役員が牽引役となり，生徒が主体的に活動できるよう心掛けた。	A
	③活動の点検について	生徒会，常任委員会，部活動の各担当教員によるレポート内容を確実に把握し，生徒への支援につなげる。情報発信にも努めたい。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	①日本大学付属推薦入試への適切な対応 ②国公立大学，難関私立大学の合格者数のアップ ③キャリア教育の充実 ④推薦入試，調査書，進路統計，各種調査報告等への適切な処理 以上の目標を掲げたが，概ね良好に運営でき，着実に成果を挙げた。	A
	②活動の実際について	①日本大学本部及び各学部との良好な関係構築に努め，迅速かつ正確に情報を収集し遅滞なく関係部署へ周知及び，共有することができた。また，日本大学学校推薦型選抜の仕組みを解説した動画を作成し，父母と教師の会支部会や保護者会等を通して，保護者への周知を図った。推薦者の選考や推薦審査会には，学年や基礎学力到達度テスト対策室，通信制課程と連携し，指導方針や情報を共有して当たり，生徒一人一人にとって満足度の高い進路実現に努めた。結果として全日制課程の日本大学学校推薦型選抜における合格者は，四年制大学292名，短期大学2名の計294名に達した。通信制課程からも，8名が基礎学力選抜を利用して日本大学への進学を果たすことができた。 ②国公立大学の学校推薦型選抜・総合型選抜では、北海道大学1名，東北大学3名，東京外語大学1名，東京科学大学1名をはじめとし，筑波大学に15名，茨城大学に4名，茨城県立医療大学に3名が合格し，国公立大学合格者の合計は35名となった。特進コースにおける国公立推薦対策の指導が功を奏していると言える。 3月10日現在，国公立大学合格者80名，北海道大学2名，東北大学3名，大阪大学1名，筑波20名(医学群医学類1名含)，茨城11名，茨城県県立医療大学4名のほか，医学部医学科にも合格者を出すことができた。難関私立大学合格者は早稲田14名，慶応3名，上智6名，東京理科40名，明治24名，青山学院13名，立教21名，中央25名，国際基督教1名，帝京大学医学部医学科にグローバルスタディコースから合格を得ることができた。 ③医歯薬医療系講演会，日大出張講義3回，法曹界講話を実施した。また，一日看護体験や日大文理学部体験授業等への積極的な参加を促し，生徒の進路意識の高揚に努めた。進路指導部情報サイトを通して，各種説明会や講演会，体験会などの情報を遅滞なく発信した。 ④調査書の作成に当たっては，令和7年度大学入学者選抜実施要項の見直しに伴い簡素化された新しい指導要録の参考様式に合わせて，記載内容の見直しと周知徹底を行った。教員が作成した推薦書や調査書，生徒が作成した志望理由書等については，次年度以降の進路指導に役立てられるよう，データを集約，蓄積していく作業を進めている。進路指導資料や基礎学力到達度テスト結果分析等においては，掲載情報を点検し，担任の進路指導に活かせる資料の作成に努めた。また，特進コース推薦入試合格者の合格体験記を継続して作成し，後進の意識高揚に役立てた。	B
	③活動の点検について	①日本大学学校推薦型選抜方式の出願方法や合格後の手続き方法が年々変化していので，確認不足などからミスが発生しないよう注意する。生徒・保護者の志望学部・学科などの確認を確実に行い，若手担任教員への支援と情報提供にも引き続き努力する。 ②国公立大学，難関私立大学合格者数増加のため，推薦入試に対する指導から，その内容や方法の確認を怠らないようにする。日本大学のN方式については，付属のメリットとして一般受験の生徒についても指導を確認する。 ③生徒対象の講演会は生徒の事後レポートを点検するにとどまらず，ポートフォリオに蓄え，推薦資料としての活用に備えたい。父母と教師の会の各支部から依頼を受けている進路講演会は保護者に周知できるよう動画内容を意識していく。 ④調査所等の書類形式についても，教務部･情報処理室との連携を確実にして準備を進めたい。進路統計，各種調査報告等への適切な処理・運営については，さらに改善を図っていく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
体育施設	①目標の設定について	教職員・生徒の安全管理及び体育館・体育施設の管理の徹底	B
	②活動の実際について	総合体育館・グランド・かすみがうら桜グランド，右籾桜グラウンドについては、施設の老朽化がみられる。右籾桜グラウンドでは、コース部分の土（砂）の箇所が場所によって水捌けが悪いところがある。このことについて，①体育館・グランド・かすみがうら桜グラウンド、右籾桜グランドについては、事務局と連絡を取り、老朽化で危険な箇所を確認して直ちに補修を行う。②老朽化だけではなく、ボールがぶつかったり、生徒がぶつかったりして、破損するところも同様である。③しかし、「壊れたら直す」の前に「壊れないように」使用する指導も行う。④常に安全管理ができるように年間を通して見回る。⑤右籾桜グランドは、芝生が剥げている箇所か数箇所あり、コースも砂量の違いのせいか、全てが均等になっていない。芝がはがれると足をとられ怪我をしてしまう可能性があり、砂量が異なると滑ってしまう可能性もあるため、季節もみながら年間を通して整備できるように点検する，取組方針を持って行っている。	B
	③活動の点検について	年度当初、体育館ランニングロードの壁の破損が3件見られた。授業や部活動で使用しているが，立て続けに起きたのは初めてのことであった。そのため、保健体育の教員・生徒指導部・事務・部活動顧問・中等教育学校職員と協力し、責任者のいない中でのランニングロード使用は禁止とした。その結果、壁の破損はなくなった 今後も、怪我や事故のないように安全管理を徹底していきたい。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
保健衛生	①目標の設定について	（１）環境の保健安全の確保 （２）生徒及び教職員の健康保持と健康管理能力の増進	A
	②活動の実際について	（１）衛生委員会において問題点を話し合い，施設･整備の改良・改善を重ねていくこと，生徒の心身の発育を促す環境づくりに配慮することを取組方策として掲げている。 　現状では，衛生委員と産業医を中心に，定期的に衛生委員会を実施し，学校の安全･安心のための環境整備が進められている。 （２）①年間計画に基づいて，生徒教職員の健康診断や検診を実施し，その結果により専門医への受診を保健室から推奨していること，②教職員のストレスチェックやカウンセリング体制が整っており，心的負担を軽減させること，③教育相談部や保健室で得られた生徒情報を学校全体で共有し，生徒対応に活かすこと，④保健だより等を活用して生徒の健康への意識を高めることを取組方策として掲げている。 　現状では，生徒、教職員共に健康診断や検診等で自己の健康チェック及び把握ができる環境が整ってきている。また，生徒の健康課題や発達課題について，カウンセリングなど組織的な支援が行われており，教職員会議等を通して全教員が共通認識している。	A
	③活動の点検について	①産業医を招いて年に２回衛生委員会を実施した。職場環境や健康管理について話し合い，健康的な勤務が継続できるように休暇などを積極的に取り入れるよう推奨した。感染症の状況を把握し，感染対策の向上に努めた。 ②生徒，教職員が健康診断や検診を実施し，その結果に応じて専門医への受診の勧めや生活習慣の見直しなど健康指導・助言を行った。 ③教育相談部や保健室で得られた生徒情報を全教員で共通理解し，各コース学年と情報共有しながら組織的且つ継続的な支援を行った。 ④教職員に対してストレスチェックを実施し，心的負担や就業形態など状況に応じてカウンセリングや助言を行った。 ⑤新型コロナ感染症，インフルエンザ感染症など各種感染症予防として，生徒指導部と協力して学校全体で換気を積極的に行い，手洗い，うがい，手指消毒，マスク着用などを推奨し，感染対策を強化した。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	「生徒の学校生活への適応と、教員の不適応生徒への対応を支援する」という目標および、そのための①～⑩の取り組み方策の設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	①新入生に対する「教育相談ガイダンス」は計画通り実施することができた。構成的グループエンカウンターにおいては，新入生の仲間づくりのきっかけとなった。学年，担任による生徒の理解を深めることに寄与できた。 ②2年生は教育相談部が提示したエクササイズを中心にグループエンカウンターを実施しており，仲間づくりのきっかけとなった。 ③「学校不適応調査」については，担任からの入力内容を元に，生徒の状況を把握し，対応することができた。 ④「高校生活に関する調査」については，教育相談に関する設問に留意して，学年の協力のもと生徒の状況を迅速に把握し，対応することができた。 ⑤カウンセリングに関しては，生徒や保護者の希望で実施したり，担任や教育相談部員，カウンセラーからの必要に応じて実施したりするなど，随時実施した。電話相談やリモートでの相談も実施した。 ⑥新入生ガイダンスブックに「教育相談体制」を掲載したり，保護者会資料に教育相談に関する内容を提示したり，本校ＨＰに「スクールカウンセラーだより」をアップしたりするなど，保護者への周知徹底を図ることができた。 ⑦「特別支援教員としての個別指導計画立案」については，今年度は該当するケースがなかった。 ⑧「スクールカウンセラーとの連携による担任支援」については，常に情報を共有し，生徒・保護者に対応する担任の支援をすることができた。 ⑨「定期的な教育相談部会開催による教員間の情報共有」については毎週月曜日と木曜日に教育相談部会を設定して，各コース・学年からの情報を教員間で共有し，不適応事案に対して早期対応することができた。 ⑩「スクールカウンセラーの来校日を原則毎日とし，上記の支援体制を強化」については，来校日が毎日のためスクールカウンセラーとつながりやすい環境にあり，カウンセリング内容についてはできるだけ教員間（場合によっては保護者）で共有し，担任や保護者の支援につなげることができた。	A
	③活動の点検について	担任が随時入力できる「学校不適応調査」の内容や保健室を訪れる生徒の様子などを共有し支援策を検討する教育相談部会を原則週２回実施し、生徒の状況変化への対応や、新たに不適応傾向が見られる生徒への早期対応、生徒対応に悩む教員の支援などに繋げてきた。部会を継続的に行うことで、それまでの支援が適切であったか否かを点検する機会とすることができた。また、こうした内容は、年６回「要支援生徒リスト」としてまとめ、学年主任や管理職とその都度を共有した。一方で、考え方が多様化する中で本校の通信制や通信制高校への転籍・転学を早期に判断するケースが増えており、学校不適応生徒に対するより一層のスピーディーな支援が今後の課題である。また、児童相談所から学校への問い合わせが近年増加しており、家庭内での生徒を取り巻く環境が適切でないケースがあることを実感させられる。社会全体で子どもを守るという観点から、場合によっては保護者に対して毅然とした立場を取るべき学校の役割を再認識する必要もあると考える。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ活動の達成状況
いじめ防止対策	①目標の設定について	「本校いじめ防止基本方針に基づいて『未然防止』『早期発見』『適切な対応』『再発防止』の各取り組みを実行し、学校を挙げて『いじめ根絶』の目標を達成する。」という目標設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	(1)「未然防止」について 生徒集会におけるいじめ防止講話については、予定通り、毎学期始業式にいじめ防止対策室長が行った。その時々の時事問題や生徒の実状を鑑みて話題を選定し問題提起を行った。4週に一度、生活目標として「いじめの根絶」を掲げて担任が講話を行う取り組みは、今年度も実施できた。各クラス担任が、クラスや学年の状況に併せて適切な講話を行ったものと考える。１年生に対するネットモラル勉強会、１・２年生に対する構成的グループエンカウンターは、教育相談部と連携し学 年の協力を得ながら例年通り実施できた。 (2)「早期発見」について 年度初めの教職員会議で、全教員に対して「土浦日本大学高等学校いじめ防止基本方針」を提示し確認するとともに、「いじめ早期発見のためのチェックリスト」の活用を呼びかけた。いじめ調査は、計画通り年３回学期毎に行った。また、担任が保護者面談の機会にいじめの聴き取り調査を行うとともに、教育相談部やカウンセラー とも連携し早期発見に努めた。 (3)「適切な対応」について いじめ調査の結果や生徒・保護者から相談があったトラブルについては、すべていじめ防止対策室全体会議で取り上げ、管理職へも報告した。いじめが疑われる案件については、特定教員の抱え込みを防ぐとともに客観的事実に迫れるよう複数教員で聞き取りや調査にあたった。その結果、今年度のいじめ認知件数はゼロである（昨年度は２件）。特に、３学期のいじめ調査では調査対象となる生徒間トラブルが激減し、これまでのいじめ防止の取り組みが功を奏してきたものと思われる。 (4)「再発防止」について 今年度は、いじめ認定した事案がなかった。いじめに至らない小さな生徒間トラブルも早期に関係教員が把握し、いじめ防止対策室と連携して丁寧に対応したことがこうした結果に繋がったものと評価できる。 （５）教員の共通理解について いじめ防止対策室長および議長が毎月の職員会議においていじめ防止の話をすることで、教員全体の情報共有と意識向上を図った。こうした取り組みが継続されたことにより、学校全体にいじめ防止の意識が浸透し、「いじめゼロ」が達成できたものと思われる。	A
	③活動の点検について	いじめ被害に遭った生徒や保護者が最初に相談するのは一番近い教員である担任や顧問であることが多いため、「いじめ問題は全教員の問題である」という認識を共有し、教員個々が対策室と同じスタンスでいじめ問題を認識できているかを自己点検する契機として、毎月の教員研修を実施することができた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
図書	①目標の設定について	<1>洋書・語学資料の収集を行う　<2>廃棄を行い、魅力的な書架をつくる 上記の目標設定については、適切なものであったと考えている。 蔵書の確認をスムーズに進めながら、図書館の魅力度アップを目指したい。	A
	②活動の実際について	<1>洋書・語学資料の収集を行う ①洋書のサイドリーダーが多く利用されるようになっているが、書誌のデータベースが無く、手入力するため作業に時間がかかり、購入冊数をなかなか増やせない。 ②海外の文化、国際関係に興味を示す生徒の要望に応えるための収集を意識したが、在庫が少なく、海外発注となる者もあり、購入までに時間がかかるものがあった。 ③語学検定史料の利用が増加しており、関係資料を増やし自学自習のサポートを進めた。 これらの取り組みにより、洋書・語学資料の一定の充実ができたと感じている。 今後も図書館の魅力を高めるために、取り組みを継続していきたい。 <2>廃棄を行い、魅力的な書架をつくる ①テーマ（分類）ごとに書架の見直しを進めた。最新の知見が得られるように利用価値があっても古い資料は書庫に移動した。 ②痛みがあったり、データが古くなったりして利用価値の低いものは、教職員の意見ももらいながら、分類ごとに順次廃棄を進めた。新たなスペースの確保につなげられた。 ③初歩的なものから学術的な資料まで、レベルごとの学習に対応できるような利活用しやすい書架づくりにつとめた。 分野ごとに利用価値の低いものの廃棄が進められ、空いた書架に新たなものをそろえられる状況ができた。継続して書架整理に取り組み、魅力度を上げていきたい。	A
	③活動の点検について	<1>洋書・語学資料の収集を行う 生徒の興味・利用の希望に沿うような収集を行うとともに、薄く破損しやすい資料は、買い直しなども適切に進めたい。 語学検定関係資料も、レベル目的別を意識し、従来の英語検定だけく、IELTS、TOEFL、TOEICなど各種検定に対応できるように勧めたい。 海外発注品などが含まれることも意識し、滞りなく作業を進めることも意識していきたい。 <2>廃棄を行い、魅力的な書架をつくる 利用頻度や内容・データの古さも確認し、価値の下がった書籍資料は平価書庫への移動や廃棄を進める。分野ごとに取り組み、新たな資料のためのスペースを確保していく。 視聴覚資料は、ビデオ資料の廃棄を進め、現在の社会情勢や学習テーマに沿った資料に入れ替えていく。 書架を整理する際は、棚板の間隔もできる限りそろえ、図書館全体で統一が取れるように作業を進めたい。 <3>その他 昨年度途中から館内に地形図等を受け入れ、配置した。探究学習や地歴公民科の授業などを中心に、積極的な利用を呼び掛け、学習計画にも盛り込んでもらえるように案内していきたい。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
広報 （情報入試）	①目標の設定について	より多くの受験生に本校の魅力を知ってもらい、安心して受験に臨める環境を整えるため、以下の施策を実施する。 1. 部活動加点制度の拡充 部活動加点の対象となる部活動の種類を増やし、幅広い分野で努力してきた受験生を評価する。これにより、単願推薦での受験者の増加を目指す。 2. 単願推薦制度のリニューアル 単願推薦の名称を変更し、受験生や保護者にとって分かりやすく周知しやすい形へと整える。また、新たに「単願推薦特進アスリート」という受験区分を設け、勉強とスポーツを両立したい受験生が選択できる制度を導入する。 3. 学校公開イベントの拡充 学校の魅力を早い時期から知ってもらえるよう、学校公開イベントの回数を増やし、本校の特色を積極的に発信する。 4. 在校生による説明機会の充実 説明会や見学会において各コースと連携し、在校生が直接受験生に学校生活や学びの魅力を伝える機会を増やす。 5. 試験後のフォローアップ強化 試験終了後、受験生に一斉メールを送信し、各コースの説明会情報を提供することで、受験後もスムーズな進路選択をサポートする。 6. SNSを活用した広報戦略の強化 LINEや各種SNSを活用し、戦略的な広報活動を展開する。最新情報を迅速かつ効果的に発信し、受験生との接点を増やす。 7. 海外訪問の拡充と説明会の実施 海外入試の説明会を各国で実施し、グローバルな視点での広報活動を強化する。 8. アメリカでの新たな展開 海外受験者の増加を目指し、アメリカにおいて新たな営業活動を開始する。より多くの海外受験生に本校の魅力を伝え、受験機会の拡大を図る。 以上の施策を通じて、本校の魅力を最大限に発信し、受験生が安心して受験に臨める環境を整えていく。	A
	②活動の実際について	【春～初夏（3月～6月）：早期アプローチと海外展開】 3月：学校公開イベントを開催し、中学2年生を対象に本校の各コースを紹介。 4月：引き続き学校公開イベントを実施し、受験生に向けて本校の学びの特色を発信。 5月：国内での学校公開イベントに加え、海外入試に向けた現地訪問を実施。日本人学校や学習塾にて広報活動を行う。 6月：文化祭内に入試相談ブースを設置し、中学生や保護者の質問に対応。 【夏（7月～9月）：体験型イベントの充実と受験準備の強化】 7月：学校見学会を実施。在校生が参加し、各コースの魅力を直接説明。 8月：部活動体験会を開催し、実際の活動を通じて本校の部活動環境を体感。 9月：秋の入試説明会を早期に実施し、受験生や保護者の関心を高める。 【秋～冬（10月～1月）：個別対応の強化と受験本番へ】 10月～11月：個別面談を実施し、受験生一人ひとりに本校の受験方法を丁寧に案内。 12月：出願開始。 1月：入学試験を実施。	A
	③活動の点検について	1. 単願推薦受験者の増加 ・昨年度の313名から364名へと増加 ・新設の「単願推薦特進アスリート」では7名が受験し、学力特待での合格者も輩出 2. 学校公開イベントの成果 ・早期に実施した学校公開イベントに多数の受験生が参加 ・参加者の多くが単願推薦試験での志願者 ・早期イベント開催が受験者増加に寄与したと考えられる 3. 海外広報活動の進展 ・アメリカでの広報活動により、実際に受験者を獲得 ・一定の成果を上げ、今後の広報活動の継続・強化が必要 4. 個別面談の効果 ・当初は併願受験生の優遇制度確認が目的 ・結果として単願推薦受験者の増加にも寄与 ・次年度は個別面談をより積極的に取り入れ、受験生との接点を強化 まとめ 　2024年度入試では、単願推薦受験者数が昨年度より増加し、新設した「単願推薦特進アスリート」でも一定の成果を上げた。早期に実施した学校公開イベントが受験者増加に寄与し、今後も継続的な開催が重要と考えられる。 　また、海外広報活動の一環として行ったアメリカでの取り組みが実際の受験者獲得につながり、今後さらなる強化が必要であることが示された。さらに、個別面談が単願推薦受験者の増加にもつながったことから、次年度はより積極的に面談機会を設け、受験生との接点を強化していく。 　全体として、今年度の入試では各施策が成果を上げたことが確認できた。これらの取り組みを次年度に活かし、より効果的な広報活動を展開することで、さらに多くの受験生に本校の魅力を伝えていきたい。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
管理運営 （教学）	①目標の設定について	「調和の精神を尊ぶ青年が育つ，活気あふれる進学校」を目指す。 A)いじめ防止対策推進，B)国公立大学受験対策推進，C)基礎学力到達度試験対策推進，D)新学習指導要領・大学入試改革への対応，E)ＩＣＴ教育推進などによる	A
	②活動の実際について	A)いじめ防止対策室中心に，啓蒙と指導を重ねた結果，県に報告するような重大事態の発生は今年もなかった。生徒間のトラブルについても対策室が学年主任・担任と連携を取ることで早期解決の対応を図ることができた。 B)特別進学コースの推薦指導が成果を上げている。推薦入試において東北大学３名，筑波大学１５名など国公立大学へ３５名が合格している。前期日程合格発表時点では，筑波大学２０名，国公立大学８０名まで合格者を伸ばしている。 C)日本大学への推薦合格者は３０２名となった。総合進学コース３学年主導による集中講座や補習等の実施，および通信制課程生徒の合格も加え，今年度も多数の合格者を出すことができた。 D)新学習指導要領による大学入学共通テストの初年度であった。新教科「情報」への対策も含め，これまでの指導により適切に対応することができた。大学付属高校としての高大接続教育ならびに各コースの取り組みによる探究活動も継続的に行われた。 E)全学年の生徒がiPadを所有に加え，今年度，全教室のプロジェクターを刷新したことで、ＩＣＴ教育が更に充実し，授業だけでなく課外活動におけるＩＣＴ教育も進められるようになった。	A
	③活動の点検について	どの目標に対しても，“ＰＤＣＡ”のサイクルを常に意識し，点検と改善に努める。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
管理運営 （事務）	①目標の設定について	①予算編成（配分）方法の検証　②教育環境の充実・維持　③諸規程の見直し	B
	②活動の実際について	①急激な電気料金，主食である米価の高騰をはじめとした物価高のなか，教育活動が円滑に行われるよう予算執行することができた。また，予算編成方法の検証と将来に対する計画立案について随時検証を行った。 ②校内全教室のプロジェクターの取替更新を行った。Wi-Fiにより容易に無線接続でき，黒板に直接明瞭に投影可能で，グラフや図表，問題文等を投影した上に板書する新たな教育スタイルで，生徒の分析力，授業理解・授業進度等の向上を図り，ＩＣＴ教育の拡充を行った。また，熱中症ゼロを目標に，第１・第２アリーナ設備から順次実施してきた総合体育館空調設備改修工事は，部活動のみならず授業で使用する柔道場・剣道場空調設備設置工事を実施し，生徒の安心・安全の学習環境整備を引き続き実施した。 ③令和７年度に私立学校法の大幅な改正が行われるため，新寄附行為の制定および施行に伴う諸規程の制定を行った。今後も引き続き，諸規程全般について，社会的な要請，学校運営の現状等にあった形で変更が必要な内容を定期的に検証を行っていく。	B
	③活動の点検について	①少子化の進行，物価高への対応など社会的な変化があるなか，予算編成方法の検証と将来に対する計画立案が重要となっており，令和６年度は，電気料金・米価の高騰等の急激な社会状況の変化のなか適切に実施することができた。 ②教育環境の充実を図り，生徒が快適に学校生活を送ることができ，学びやすいと実感する整備，また，生徒の安全を第一義に考えた必要な施設設備の整備を，優先的に取り組む方針のなか，プロジェクター取替更新によるＩＣＴ教育の充実，熱中症ゼロを目標とした総合体育館柔道場・剣道場空調設備設置工事を実施することができた。 ③令和７年度に私立学校法の大幅な改正が行われるため，新寄附行為の制定および施行に伴う諸規程の制定を行った。今後も引き続き，諸規程全般について，社会的な要請，学校運営の現状等にあった形で変更が必要な内容を定期的に検証を行っていく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
庶務	①目標の設定について	①行事計画の見直しと健全な部署組織の構築 ②父母と教師の会および同窓会の活性化。 ③防災計画の見直しと防災意識の醸成。	B
	②活動の実際について	①コロナ禍をきっかけに多くの行事が新しい実施形態を取ることになった。しかし，依然とし精査が必要な行事は多く，引き続き適切な学校行事となるよう検討が必要である。再来年度の行事予定にも反映させたり、中等教育と連携を密にし、無理のない行事計画の立案が必要であることが分かった。 ②役員会の実施にあたっては，オンラインと対面を両立することで中止することなく活動した。また，研修旅行や全国大会応援などの活動も計画通りに実施することができた。 ③昨年度に引き続き，避難訓練を緊張感が保てるような方法を加えながら実施することができた。生徒だけではなく教職員に対する防災教育の必要性についても認識することができた。	A
	③活動の点検について	①各行事後に各係毎に意見をもらい，準備の効率化につなげられたかどうか引き続き点検していく。また，定期的な部会の開催で確認していく。 ②会長との密な連絡と内容の確認していく。 ③施設の点検等事務局との連携し進めていく。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
総合進学ｺｰｽ （含ｽﾎﾟｰﾂｸﾗｽ）	①学習指導	《進学クラス》各学年ともに，通年で実用英語技能検定に向けた対策講座を開講した結果、準２級以上を取得した生徒が増加し，進路実現や資格取得に対する意識の高揚を図ることができた。 １年生：授業開始１分前着席を徹底し，日々の授業を大切にすることに重点を置き指導を徹底した結果，授業に取り組む姿勢は良好であった。また，朝のSHRを利用した古文単語テストや英単語テスト，課題等は教科と連携して取り組み，成績不振者や課題未提出者を出さないように指導することで，学力の底上げができた。 ２年生：基礎学力の定着と学習習慣の養成を目的に，成績不振者に対する指名制学習会を通年で実施すると共に，全生徒に基礎学力の向上を目指す課題配信を行い，学習時間の確保に努め，定期的な復習を促した。また，基礎学力到達度テストを見据え，国語・数学・英語の小テストをLHRやSHRに実施し，基礎問題は確実に得点できるように指導した結果、定期考査や各種模試で成果を出した。 ３年生：基礎学力の向上を目標に，授業はもちろんのこと，これまで継続して行ってきた「朝学習」や基礎学力到達度テストに向けての課外授業の取り組みによって，早期に受験生としての意識を持たせることができた。また，定期考査や模試の結果をもとに教科担当者と情報を共有し，弱点分野の補強や強みの伸長などの目的を持って，確認テストや週末課題，放課後の課外やサマー集中ゼミ，基礎学力到達度テストの直前課外などを実施した。各自が目標を達成した結果，好成績を収めることができた。 《スポーツクラス》 文武不岐を追求し、学習習慣の確立、基礎学力の向上と共に授業第一主義を図った。また、自主学習が重要であることを説き、自分の進路を自分で決められる主体性の育成を目指しながら、探求学習を促すことができた。	B
	②進路指導	《進学クラス》 １年生：進路適性検査の結果や二者面談を通して，自身の特性を知り，将来の可能性を広げることができた。また，各種講演会に参加したり，進路ノートを活用したりすることで，自らの興味関心に基づく学問系統について学び，将来像を具現化するとともに将来の職業を意識し，先を見据えた文理選択や科目選択をすることができた。 ２年生：年2回の日本大学出張講義を始め，各種講演会に参加することで，大学での学びや研究活動への理解を深め，適切な職業観を養うことで，進路への意識をさらに高めることができた。 ３年生：志望理由書や小論文指導を通して，自らの関心事項について改めて理解を深めた。また，学年全体で面接指導や進路指導に関わることで，進路について幅広い視野や意見を持たせることが可能となった。3年間を通じて学年教員が一丸となって指導を行った結果，日本大学への進学者は，進学クラスでは271名（81.4%），スポーツクラスでは15名（24.2%），他大学への進学クラスの進学者では，学校推薦型選抜で，茨城県立医療大学1名，総合型選抜では，日本女子大学人間社会学部1名，立命館大学理工学部1名，一般入試で，東京理科大学創域理工学部1名，明治大学政治経済学部1名，明治大学農学部1名，青山学院大学経済学部1名，学習院大学経済学部1名がある。 《スポーツクラス》 生徒の個に応じた展開を心掛け、意識の高揚と準備を促しながら、日大基礎学力選抜、付属特別選抜、部活動推薦などあらゆる受験への対応を図り、進路実現に努めることができた。特に３学年担任との面談を定期的に行うことで、クラスの進路状況を随時正確に把握できた。また、保護者との連携も最重要項目としていたが、概ね達成できた。	B
	③生徒指導	《進学クラス》 各学年共に落ち着いて規則正しい学校生活を送ることができている。社会のルールやマナーを遵守すると同時に本校の規定を意識する生徒が多く，身だしなみを大きく逸脱している生徒はほとんど見られず，良好な状態が維持されている。高校生活に関する調査の結果を受けて，二者面談やこまめな声かけを随時行い，教育相談部・教育カウンセラー・保健室等の各部署と情報共有をすることで，生徒理解・把握に努めることができた。 《スポーツクラス》 爽やかで礼儀正しい、けじめあるアスリートを目標に、「今やれることを全力で」取り組ませた。担任と部活動顧問が連携を図り、生徒指導にあたった。 授業第一主義を掲げて居眠りや授業妨害などせぬよう教室巡回を徹底して行った。その成果もあり、大きな乱れやクラス間での格差がなくなり、学習効果も上がった。	B
	④特別活動指導	《進学クラス》 蓼科宿泊学習，海外修学旅行をはじめとし，文化祭や体育祭など多くの学校行事が予定通り実施できた。生徒の多くは，学校行事にも積極的かつ向上心を持って取り組んでいた。ボランティア活動や部活動に参加する生徒も多く，興味関心がある活動に積極的に参加することができた。修学旅行の事前学習において，他国の伝統や文化を尊重した上で、自らの意見を伝える表現力を養った。学校行事を通して，他者を理解しコミュニュケーションを図ることやクラスの絆を深めることができた。個々の生徒が学習との両立を図りながら，様々な学校行事に参加し，自ら判断して行動することができた。 《スポーツクラス》 各種学校行事に率先して取り組み、他生徒からの信頼を受ける生徒に成長させることを目標とした。人の嫌がる仕事を率先してこなし、クラスメイトと協力して学校生活を送れるよう指導した。スポーツ大会や体育祭などでは全力を尽くす姿がとても印象的であり、スポーツクラスが体操から牽引して率先して盛り上げることができた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
特別進学ｺｰｽ	①学習指導	難関大学に合格できる高い学力，専門分野への知的好奇心，ルール・マナーを守る社会性の３点を高めることを目的とした学習指導を行ってきた。特に，学校推薦型選抜に適応できる得意科目を伸ばす指導と探求型学習としてのインタレストラーニングを導入し，一定の成果を得ることができた。 １学年：入学当初より毎日の授業を重視した指導体制で臨み，単純な記憶力に頼る学習スタイルから各教科の観点から物事の本質を理解する学習スタイルへ転換できるよう指導した。課外授業を1学期は原則全員参加型で実施し，２学期以降は習熟度別に分割し実施した。英語では最上位層の成績を残した生徒には課外授業自体の出席を任意とし，授業参加を自らの意思に委ねた。数学については下位層の成績であった生徒には出席を強制する課外授業を実施，一定の成績を残せるまで帰宅できない体制で臨み成績向上を図った。自らの出した結果に応じて課外授業への出席を自分で選択できる制度としたことで，生徒達のモチベーションの向上を実現できた。 ２学年：理科・地歴専門科目のスタートダッシュについては，模試の結果などから判断すると，概ね例年並みであった。ベネッセのプラットフォーム「Classi」を活用し，通年を通して進研模試の対策を実施した結果，模試の平均偏差値は過年度と比較しても上位を維持している。今後も個々のペースで継続させていきたい。英検２級以上の取得率は現在60%、スーパーハイクラスにおける準１級の取得率は30%である。今後も英検に限らず，TEAPなどの外部検定試験についても、必要に応じて受験を促していく。 ３学年：例年より上位層が多く出ており，共通テストもまずまずの結果を残すことができた。	B
	②進路指導	大学入学共通テストおよび新学習指導要領を見据え，難関国公立大学・私立大学へ多くの合格者数を出すことを目標に，一般入試だけでなく，様々な入試形態（総合型選抜・学校推薦型選抜）に即した指導を柔軟に行った。その結果，国公立大前期合格段階で，東北大学３名，筑波大学１９名（医学群医学類含む），茨城大学１０名，国公立大学７４名の合格者（コース所属の現役生のみ）を出すことができた。 １学年：教員陣の経験を通した進学・進路実現に関する講話や，ホームルームでの大学・入試制度調査，各大学の実施するオープンキャンパスへの出席などを通じて高等教育機関としての大学への進学意識を深めた。学習意欲を高めるとともに，大学入学試験への出願資格にもなる各種資格試験への受験も促し，日々の学習が進学に繋がっていることを意識させた。全ての生徒が具体的な志望大学の学部学科をいえるようになっている。 ２学年：各クラスの担任は，志望進路先の分野に関する講習会や講演会を積極的に該当生徒へ勧め，受講を促すことができた。学年行事として卒業生講演会の開催は叶わなかったが，卒業生に依頼し座談会を実施したクラスもあり，徒は大学に対するイメージをより具体的に膨らませることができた。また，メンタル講習会では，元ソフトボール日本代表の峰氏を招き目標を達成するためのプロセスにおけるメンタルの在り方について講義していただいた。さらに，修学旅行の事前指導と地理の学習を兼ね，筑波大学の堤先生にオーストラリアについて講演していただいた。これにより，生徒はオーストラリアに関する知識を深めるとともに，大学の先生の授業を直接体験する貴重な機会を得ることができた。 ３学年：学校推薦型入試を活用し，生徒の第一志望合格および国公立大学合格に繋げる指導を行った。また，個人面談を充実させ，進路希望に対する課題の掌握に力を注いだ。ＬＨＲを中心に入試制度についての指導を継続し，ミスなく受験に臨ませることができた。	A
	③生徒指導	挨拶の励行およびルール・マナーを守る社会性を身に付けることを念頭においた指導を行った。 １学年：社会の一員としての自覚ある言動と行動の確立を目標に掲げた。受験を控え，学習や進路への悩みを抱える生徒に対しては，保護者や教育相談部，スクールカウンセラーと連携を取りながら対応に当たった。 ２学年：特別進学コースの一員として，遵守すべき規範は確実に守ることができた。一方で，SNSやゲームなどの自己管理の面ではまだ確立できていない生徒も多く見受けられる。受験生としての自覚を再認識させるとともに，保護者と連携しながら早期改善を図っていきたい。オーストラリア修学旅行のホームステイでは、特別進学コースの一員としての自覚を持ち，ホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとる姿が見られた。また，旅行中は担任をはじめ学年団の教員が一丸となって指導に当たることができた。年間を通じていじめなどの問題は発生しておらず，今後も生徒が自分の意見を大切にしながら、他者の意見にも耳を傾けられる姿勢を育む指導を継続していきたい。 ３学年：最上級生として生徒も精神的に成長しており，昨年度までのような人間関係のトラブルは見られなかった点は良かった。一方受験を前にして不安定となる生徒がおりその都度サポートしてきたが，予防的な取り組みが不十分であったと感じている。	B
	④特別活動指導	１学年：生徒一人ひとりの興味関心に応じた探究型学習に全ての生徒が参加した。教科学習とは異なる分野での学びを主体的に行い，「知ること」が自らの視野を広げ人生をより豊かにしてくれることを文字通り体験した。 ２学年：学校行事の準備においては各クラスの実行委員が中心となり，創意工夫を凝らして取り組み，担任はその補助として効果的に機能した。体育祭やスポーツ大会では，クラス単位だけでなく，特別進学コースの一員としての帰属意識を持ち，互いに応援し合いながら盛り上がる姿が見られた。 またインタレストラーニングでは，本年度より発表会を実施し，成果を他者に評価してもらう機会を設けた。こ れにより，生徒は協働して一つのものを作り上げる喜びを実感することができた。 ３学年：体育祭，文化祭，スポーツ大会等に積極的に参加させることができた。集団への帰属意識も高まってきたように感じている。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｽﾀﾃﾞｨｺｰｽ	①学習指導	実践的英語力，豊かな教養，批判的思考力，論理的思考力を身に着けることが目標である。 １年：アクティブ・イングリッシュのプレゼンテーション指導を通じて，実践的英語力を向上することができた。アイヌ学習を中心とした総合探究科目の充実図り，豊かな教養及び論理的思考力を身につけた。英語能力向上では英検を準１級５名，２級１０名が獲得している。 ２年：アクティブ・イングリッシュのディベートを通じて，高いレベルの論理的思考力と批判的思考力を身に着けることができた。英検は１級２名，準１級８名，２級１８名が資格を得ることができた。 ３年：総合型選抜入試及び学校推薦柄選抜入試の準備・指導の結果，総合型選抜入試及び学校推薦柄選抜入試で受験した多くの生徒が合格を勝ち取ることができた。英検は１級３名，準１級１２名，２級１０名が資格を得ることができ，力をつけて卒業させることができた。 本年度からの理系カリキュラム始動に伴い、総合探究科目内容の見直しがなされ、豊かな教養、論理的思考力、批判的思考力を身に着けるためにより深化した内容となっている。	A
	②進路指導	生徒一人ひとりの興味関心を掘り下げ，個性を活かした進路指導を行う。 １年:オーストラリア短期留学や様々な講演会を通して，生徒一人ひとりが興味関心を深めることができた。特にオーストラリア短期留学では海外の生活文化及び学校スタイルを体験することで，さらに興味関心を深めることができた。 ２年：カナダ中期留学や実習，また総合探究科目における個人探究が，それぞれの進路選択に繋がるように促すことができた。 ３年：生徒一人ひとりの進路実現に向け，入試対策を徹底した。その結果 筑波大１名，上智１名，ＩＣＵ１名，立教２名，青山３名，中央３名，法政３名，日本大学６名，帝京医学部１名，海外大学１名他の合格実績が出ている。	A
	③生徒指導	将来のリーダーとしての資質を身に着けさせる。 １年：コロナ禍を経て高校生となった生徒たちが、様々な学校行事やGSコース独自教育活動を通じて人間的に大きく成長した。 ２年：中期留学や、ディベート大会をはじめてとする教育活動を通じて大きく成長した。 ３年：全ての生徒が進路実現に向けて懸命に努力する過程で、人間的成長を遂げた。	A
	④特別活動指導	学校行事及び部活動への積極的な参加。 それぞれの学年行事においてすべての生徒が積極的に参加するようすがみられた。とくに、３年生は文化祭においては、クラス出展部門において優秀賞を獲得するなど顕著な活躍があった。１・２年生も部活動・生徒会活動への参加率が高く積極的な姿勢がみられる。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定･活動点検の適切さ･活動の達成状況
情報処理	①目標の設定について	Ⅰ.センタースイッチ更新 Ⅱ.購入アプリケーションの活用研究	B
	②活動の実際について	Ⅰ.喫緊の課題だった教室プロジェクター更新に金銭的・人的資源を充てたため実施には至らなかった。 Ⅱ.通常業務に追われ実際に活用方法を研究するには至らなかった。	D
	③活動の点検について	Ⅱ．付加コスト無しで業務を効率化できるものなので，次年度も継続する案件として残したい。来年度は手法を変え，プロトタイプ方式で進めていきたい。	B